

## 科学技術社会研究所 第42回研究会概要

日時：平成26年9月18日(木) 13:10 - 17:00

場所：目黒区田道住区センター三田分室（第1会議室）

### 1. 「歴史は必然か - 歴史事象の間隔のべき乗分布と自己組織臨界 - 」：大西 輝明

歴史事象の時間間隔を統計的に分析した結果と、事象生成に関する数学的モデルから時間間隔の分布を計算する試みについて発表があった。紛争や戦争等に関する歴史書の年表を調べたところ、ランダム事象のように間隔の分布が指数関数になる場合と、べき乗分布になる場合とがあった。そこで、多数のステークホルダーが事象から影響を受けて別の事象を起こすというモデルを考え、影響の大きさと事象生成確率に関するいくつかの仮定を置くと、条件により上記のどちらの分布も再現できた。べき乗分布の場合は一種の自己組織化現象ではないかとの話であった。

これに関し、関連分野の研究状況、数学的モデルの内容、引き合いに出された乱流に関する公式、関連文献などについて質疑とコメントがあった。

### 2. 「認知科学（Cognitive Science）～私のアプローチ～」：伊藤 誠二

認知科学に関心を持ってきた経緯や問題意識などについて話があった。認知症と統合失調症の関係、統合失調症における妄想と信念の区別、妄想発現の要因、いわゆる認知行動療法の考え方などについて述べられた。今後、認知科学の勉強を進め、正常と軽度の統合失調症との間の連続性と認知の歪が拡大する仕組みなどについて検討したいとのことであった。

これに関し、認知科学の具体的分野、思考と認知の歪の関係、薬物や薬品による妄想、サードマン現象（危急時に現れる幻覚）や宗教的な幻覚、意識の問題、関連文献などについて質疑とコメントがあった。

### 3. 「医療労働者としての医師たち---高血圧・糖尿病などの基準値を例として」：伊藤 泰男

降圧剤の副作用に悩まされた経験などから、血圧等の基準値や降圧剤の健康影響などについて調査し、関係する医療システムの問題について考察した結果が述べられた。近年、血圧の基準値はどんどん下げられてきた。しかし、高い血圧と脳梗塞との相関を示すデータはあるものの、降圧剤による人為的な血圧低下が健康維持に有効という明確な証拠はないようなのに対し、降圧剤の使用はむしろ逆効果という統計データや臨床試験結果がある。コレステロール低下剤についても同様な状況がある。今年、血圧等に関する基準値見直しが提言されたものの反対意見も強いようである。このような医療システムの状況の改善には患者側から医師へ働きかけが必要とのことであった。

これに関し、医学情報に関する医師と患者の不均衡、医師の勉強不足、医学的データのばらつき、マニュアル化された診断と処方の問題などについて質疑とコメントがあった。